

雲取山山行記録



雲取山頂へ



コガネネコノメソウ



馬酔木(アセビ)

目的地	雲取山(三峯神社から)	期日	平成23年5月25~26日(水・木)
山人	笠原正雄・澄子	特記	4度目の登頂だが、埼玉側からは初めて。

地点名	時刻	記 事
25日: 晴れ		
与板発	7:00	高速利用、走行距離 275 km。三峯神社駐車場 11:15 着。駐車料一日 500 円。
歩き出し	12:00	駐車場上の山麓亭で玉井を食べて、奥社へ向かう参道から入る。
妙法ヶ岳分岐	12:17	コンクリート鳥居をくぐると、4つの行程別の数取機カウンターがある。
炭焼平	12:46	妙法ヶ岳からの下り道と合わせた後、炭焼き釜跡がある。杉とヒノキの林を緩登。
地藏峠	13:11	左から大陽寺の道と合わせる。標高 1500 とある。地藏様の祠。右に上がる。
霧藻ヶ峰三角点	13:18	H1532。木々に囲まれ展望は利かない。裸地復元の苗木が植えられている。
霧藻ヶ峰休憩舎	13:22~13:33	直前の切り立った岩に秩父宮レリーフ板が埋め込まれている。少し下がって休憩舎。右手の展望が開けて、両神山が見える。山座円盤があり遠くは甲武信岳か。
お清平	13:44	鞍部の広場。同年代 4 人男隊が休んでいた。ここにも左からの大陽寺の道が上がって来ている。無風で日差しを受けるが、樹林で冷ややかだ。
前白岩の肩	14:22	H1776。ここへの九十九折れの登りは結構きつい。モミ、シラビソ、コメツガ、ヒノキ等があるが、どれがどれだか分からない。所によりダケカンバも混じる。
白岩小屋	14:55~15:07	廃屋である。右手が広場になっている。直前に水場 10 分の案内があった。小屋前のベンチでパンを食べる。少し先に進んだ所で雲取山頂が見えた。
白岩山 1921.2m	15:30	登路右の広場に三角点がある。樹林で展望はない。オオシラビソの看板。
芋ノ木ドッケ基部	15:36	11~4 月は滑落の恐れがあるから自信のない者は引返せとの注意書きがある。尾根コースは健脚向け。右トラバースに入ると前方に山荘の赤い屋根が見えた。
尾根通し道合流	15:55	芋ノ木ドッケから下りてくる道と合わせる。水松山方面の小川谷林道は 3.11 の大地震で土砂崩れのため通行禁止だ。
大ダワ	16:11	鹿の食害だろう、朽ちた倒木が多い。4 年前に日原から歩いた大ダワ林道は崩壊、滑落事故発生のため、通行禁止のロープが張ってあった。女坂コースに行く。
雲取山荘着	16:30	手前に数張りのテント。クラブツーリズム 20 名が来るため、千葉の夫婦と相部屋。離れの自炊室で夕食。自炊客は我々のみ。7:10 頃就寝。まだ外は明るい。
26日: 曇りのち小雨		
日の出	4:30 頃	外に出て雲間から上がる日の出を迎える。部屋に戻って窓から写真を撮る。もう一度寝る。5 時からの宿の朝食を済ませた千葉夫婦は飛龍山へ向かって行った。
山荘発	7:10	最後の客で、部屋を空けるよう促された。最小限の荷物で山頂へ向かう。
雲取山頂	7:32	曇りで展望無し、数人が居た。背景に富士山が写るはずの所で写真を撮って貰う。
避難小屋発	8:10	避難小屋は無人になっていた。板の間に上がって焼きラーメンを作り朝食。若者 2 人他が小屋を覗きに来た。山荘に戻る際、鎌仙人と田部重吉の碑を見に寄る。
雲取山荘前発	9:00	山荘前のテーブルでパンを食べ、2 階窓から顔を出した主人に挨拶をして下山。
芋ノ木ドッケ手前	9:38	男坂を下る。トラバース道で中央写真のほかにマルバネコノメソウも撮る。
白岩山	10:10	ここまで 1 人とスライドしたのみで、昨日に比べ山は静かだ。急降下へ。
前白岩の肩	11:00	目線より下に薄い雲が流れる。うす曇りで展望は無い。ヤシオツツジ、新緑。
お清平	11:25~11:45	一枚羽織る。湯を沸かしお茶を飲む。一口羊羹。樹林のせいもあるが薄暗くなる。
霧藻ヶ峰休憩舎	12:00	歩くと暑くなる。羽織った物を脱ぐ。前日の 4 人男隊を超越す。
地藏峠過ぎ	12:10	濃いガスからポツポツと雨が当たって来た。少し急ぎ足で下る。
ヒノキ植林地	12:35	雨は上がった。ユモトマムシグサ? (ナンテンショウ属) を撮る。
車に戻る	13:10	10 分先の神社に詣で、神社宿泊所の「神の湯」で入浴。高崎まで下道で帰る。

今春、雲取山荘から年賀状が届き、持参すればオリジナルグッズをプレゼントとあった。秩父からのコースも気に掛けていたので出掛けることとした。鴨沢からのコースと比較すれば、登山口からの標高差はこちらのほうが少ない。そして歩行タイムもやや短い。しかし、上げ下ろしがあるため体力的にはこちらのほうが上のように思う。